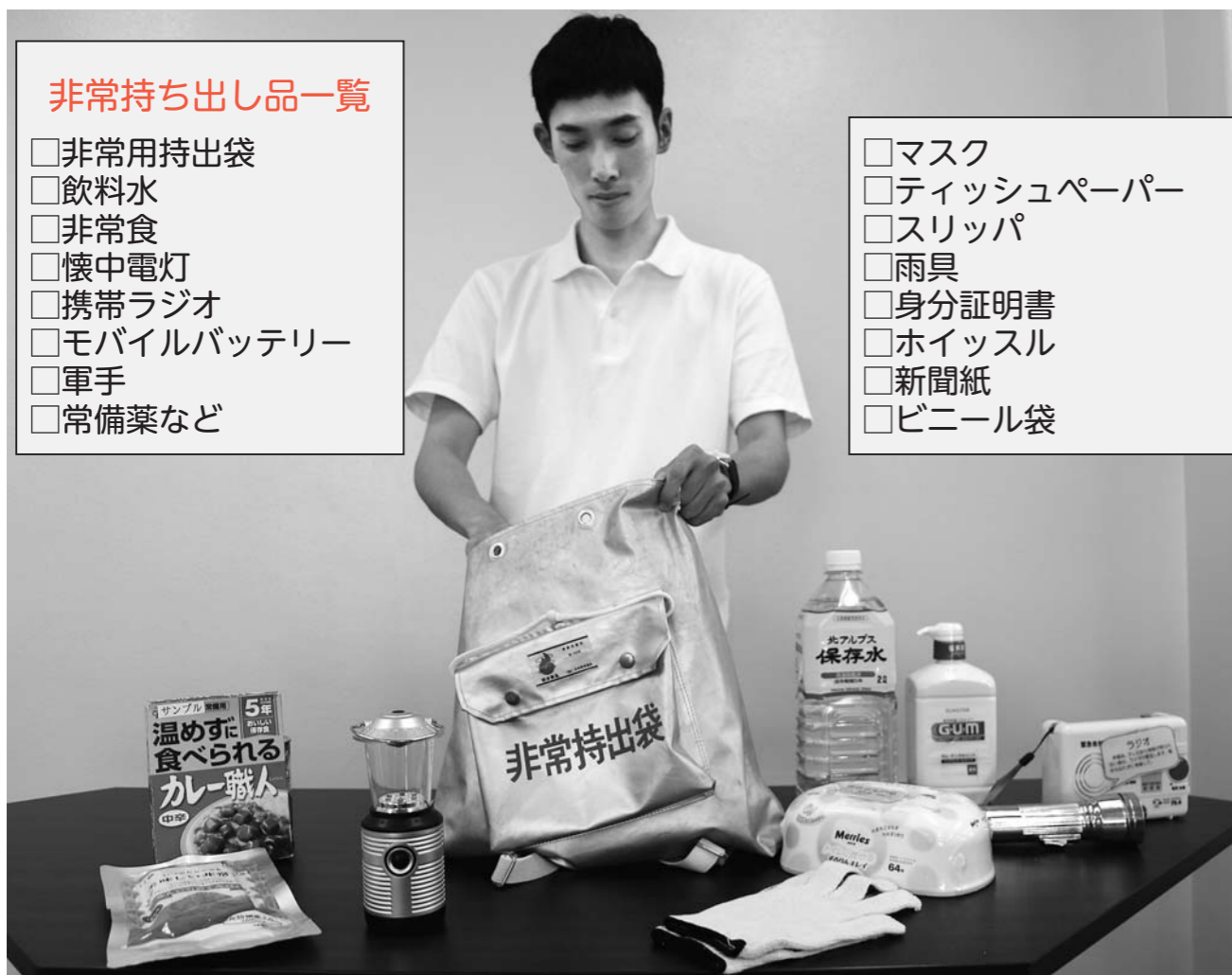


早めの準備を 台風に備えよう

7～10月にかけては、台風や前線の影響で大雨、暴風による自然災害が最も発生しやすい季節です。自分や大切な人の命を守るため、事前に対策を講じましょう。詳しくは、市危機管理室TEL784-8166へ。



平成26年9月豪雨で浸水した阪急伊丹駅前



非常持ち出し品一覧

- 非常用持出袋
- 飲料水
- 非常食
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- モバイルバッテリー
- 軍手
- 常備薬など
- マスク
- ティッシュペーパー
- スリッパ
- 雨具
- 身分証明書
- ホイッスル
- 新聞紙
- ビニール袋

災害前

▶ 高齢者・子どもがいる世帯の持ち出し品



高齢者や持病などを抱えている人がいる世帯や、小さな子どもがいる世帯などは、常備薬やお薬手帳、おむつやミルクなどが必要です。どのような持ち出し品が必要になるかを普段から家族で話し合っておくことが大切です。

▶ 危険箇所を確認

どこが被災想定区域なのか、災害が起こった時にどこに避難したらいいのかハザードマップで確認しましょう。ハザードマップは市ホームページ(右二次元コードから読み取り可)から確認を。



紙媒体のハザードマップは、防災センター2階の危機管理室や市役所3階の広報・シティプロモーション課で入手できます。

▶ 自宅周辺の対策

- 【窓やフェンスなどの損傷を防ぐ】** 家の周りの飛ばされそうなものは、家の中に入れるかロープなどで固定する。窓ガラスはテープや飛散防止フィルムで補強し、雨戸やシャッターを下ろし、カーテンを閉める。
- 【冠水リスクを下げる】** 側溝や排水溝のごみを掃除する。
- 【浸水を防ぐ】** 土のうをシャッターや扉前に敷き詰め、水や土砂の移動を妨げる(市は、災害が予想される時に土のうを配布しています)。土のうが用意できない場合は、水の入ったペットボトルを段ボールに詰めて簡易の堤防として使えます。

災害時

▶ 警戒レベル4までに避難を

警戒レベルは、災害発生の恐れが高くなるほど数字が大きくなります。レベル3は高齢者など避難に時間を要する人、レベル4は原則危険な場所にいる人全員を対象としています。レベル5は、命の危険が迫り大きく身動きを取ることができない状況が予想されるため、必ずレベル4までに避難しましょう。

警戒レベルごとの避難情報ととるべき行動

警戒レベル	避難情報	とるべき行動	情報発信元
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保	市
警戒レベル4までに必ず避難を!			
4	避難指示	危険な場所から全員避難	市
3	高齢者等避難	高齢者など避難に時間を要する人は、危険な場所から避難開始	
2	大雨・洪水・高潮注意報	ハザードマップなどの情報確認	気象庁
1	早期注意情報	災害への心構えを高める	

▶ 災害情報の確認を

災害時は「市LINE防災」や「ひょうご防災ネット」などによる情報をチェックしましょう。

市LINE防災

本市の気象・防災情報の提供や避難所開設などの情報をLINEで発信しています。



ひょうご防災ネット

緊急気象情報や避難情報などを発信しています。メール登録すればメールで情報を確認できます。



屋外拡声器&エフエムいたみ (79.4MHz)

市内で災害などが発生した場合や発生のおそれがある場合に、屋外拡声器で市内28カ所から放送。ラジオでは、緊急時に災害・避難情報などを放送。

